

令和 6 年度 県立つくばサイエンス高等学校自己評価表

目指す学校像	科学技術に関する探究活動を通して、次世代の科学技術と社会を担う志を持つ人財を育成する学校 大学や企業、研究機関との連携を通して主体的かつ協働的な学びを推進する学校			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	次世代の科学技術の担い手として、未来を切り開く人財		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	科学への知的好奇心、探究心を育み、進学後の学びの基礎を築く教育課程		
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	科学への知的好奇心、探究心を持ち、未来を創る志のある生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
学習面では、各教科の特性を生かしながら基礎学力の向上に努めたが、学力の定着には大きな開きがあった。ICT機器の活用などで生徒の個に応じた学習指導を実践する。科学国際セミナー等をはじめ、科学技術科内の各科目の連携で専門領域への関心を高めることができた。 文化祭などの学校行事や工業系を中心とした部活動など、特別活動では、生徒の積極的な参加が認められた。今後も生徒の主体性を伸ばす取り組みは継続していく。 タブレット端末等のICT機器を活用した授業の実践と工夫を図り、定期的な研修を行い、授業の改善に取り組むことができ、生徒から一定の評価を得た。 デジタル人材の育成及びICTを活用した探究的な学びの推進を目指し、「高等学校DX加速化推進事業」に応募し採択された。本事業の具体的な進め方について校内各所と調整していく。 つくばサイエンス高校の説明会に加え、近隣の中学校を積極的に訪問するなど、新校の目指す学校像について中学校・生徒及び保護者への理解に努めたが、定員を確保することには至らなかった。今後も、新校の独自性を積極的にアピールしていきたい。		1 学習指導の充実	① ICT 機器を活用し、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。 ② 観点別評価に伴う評価基準を明確化し、年間指導計画に沿った教育活動を展開する。 ③ 主体的・対話的で深い学びを目指した授業を探究し、生徒一人一人が社会で活躍する礎となる思考力・判断力・表現力の育成に努める。	B
		2 進路意識の高揚と進路希望の実現	④ 科学国際セミナー等により専門領域の学習内容を理解し、進路意識の高揚を図る。 ⑤ 生徒の科学的好奇心を育むため、大学・研究機関との連携を具体的に構築する。 ⑥ 総合型選抜入試を見据えた探究活動の環境を整備し、進路指導体制の確立に努める。	B
		3 特別活動等の充実・発展	⑦ 生徒による特別活動への積極的な参画を通して、生徒が主役になる特別活動を充実させる。 ⑧ キャリアパスポートを活用し、特別活動での学びを振り返り、キャリア形成の手助けを行い、生徒の自己実現につなげる。	B
		4 働き方改革	⑨ 教職員の働き方に関する意識改革を行い、超過勤務時間の削減を図る。 ⑩ 定時退勤日の設定、年次休暇、特別休暇の取得を推進する。	A
		5 授業改善の推進	⑪ 生徒の授業満足度を 4 点満点中、全教科平均 3.5 以上にする。 ⑫ 授業改善に向け、研究授業の開催、他校視察、相互授業参観、校内研修等を推進する。	A
		6 デジタル人材育成実施に向けた環境整備	⑬ 各種コンテストや情報に関する学会等への参加を促進する。 ⑭ デジタル教材の活用により個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を進め、ICTを活用した教科等横断的な探究的な学びを強化する。	B

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導 (国語科)	国語的教養及び語彙を広げ、深める	デジタル教材の特長に応じた活用等、課題を充実させ家庭での学習習慣の獲得を目指し、高校生としての国語的教養を身に付けさせる。①②⑭	A	A	・語彙の習得や文章の読み取りの向上を踏まえ、読み取った内容を的確に表現することや生徒自身の考えの深化につながるようにする。
		「NIE NIE 蟬」から、新聞に出てくる漢字を習得させる。①③⑭	A		
	文章の内容を理解する能力を養う	一般的な語句や言葉の意味を知り、語彙力を向上させる。①③	A		
		文章を読んで多くの考えに触れ、自己の思考との比較をさせる。①③	B		
	自己表現力を養う	各種文章の書き方を学び、時と場合に応じて文章で表現させる。①③	A		
	時事問題からの考察力及び社会に対する関心を養う	メディアリテラシーを踏まえつつ、weB記事やコラムから時事問題について考察させる。①③⑪⑭	B		
		他者の視点や考え方を知り、それらを自分の考えに反映させる。③	B		
	授業満足度の向上	振り返りを通して、生徒の理解度を適切に見取る。②⑪⑫	A		
教科指導 (数学科)	数学的な基礎力の確立	I C T の活用により生徒の学習活動の効率化や質的向上、個別最適化を図り、数学への興味関心を向上させ、理工系学部進学的基础となる知識や技能を定着・向上させる。①⑨⑭	A	A	・他教科との連携を深め、生徒の学びを深化させる。
		少人数による習熟度別授業や課外授業の充実によって個別最適な学びを促進し、生徒の特性に即した形で数学的な基礎力を確立させる。また、目標や評価基準を綿密に共有し、計画的な教育活動を行う。①②⑭	A		
	高度な思考力・判断力・表現力の育成	授業や課外等で発展的な内容を扱うことで、理工系学部進学に求められる高度な数学的思考力や判断力、課題解決力を身に付けさせる。また、協働的な学びを促進し、他者との対話を通して自身の知識や考えを正確かつ明確に伝える数学的表現力を身に付けさせる。③⑥⑭	A		
	数学への興味関心の深化	教科等横断的な学びを促進し、物理や化学、工学などの科学分野と数学との関連性を理解させ、日常生活と数学との関連性を主体的に見出す姿勢や課題発見力を育む。③⑥⑭	B		
	授業改善サイクルの確立	相互授業参観や教員研修を充実させるとともに、授業アンケートを定期的実施することで、教師と生徒の双方方向での授業改善サイクルを確立する。⑪⑫	B		
教科指導 (地歴・公民科)	基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得	ICT 機器を活用し、個々の学習状況に合わせて問題に取り組ませることで、基礎学力の定着や学習に取り組む意欲的な態度を育てる。①②③⑨	A	A	・既習事項が学習している内容につながっていることを理解し、授業の中でつながりを持たせることを意識する。 ・社会問題を自分事として捉えられるように、教材研究をする。
		授業内容を社会問題や時事問題へとつなげて、自分事として学習できるよう工夫する。①③	A		
	学力の向上	授業内容を生徒の理解度に合わせて精選し、学力が定着するよう促す。①②⑪⑫	A		
		基礎的な学力の定着はもちろん、応用問題にも対応できるような力を身に付けさせる。③⑪⑫	B		
	進学指導の充実	総合型選抜入試や小論文指導など、年次や進路指導部とも連携して行い合格率向上のための基礎力を養う。⑥	B		
	授業改善の推進	各授業でタブレット等の ICT 機器を積極的に活用し、わかる授業を展開する。①②⑪	A		
教科指導 (理科)	生きて働く「知識・技能」の習得	高校で新たに学ぶ知識を、中学校までの既習内容と関連付けていくことで、理科の重要概念を理解できるようにする。また、大学入試に対応できるようにしていく。②③	A	A	・観察・実験の授業をより積極的に実施することで、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する。
		主張や根拠を効果的に表現できるようにするために、観察や実験を通して、器具の使い方や、表やグラフの活用方法を身に付けられるようにする。①③	B		
	未知の状況にも対応する「思考力・判断力・表現力等」の育成	観察や実験の充実や協働的な学びを通して、予想・仮説を設定し、データを考察して規則性や法則性を見いだす力を育成できるようにする。③⑭	A		

別紙様式 2 (高)

	学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養	授業プリントや問題集等の活用を通して、生徒個々が取り組み方を調整できるようにする。②⑫	A		
	授業改善の推進	I C Tや外部のコンテンツを活用する。①⑭	A		
		前年度までに蓄積した授業や実験のプリントを改善し、理科教員間で共有する。①⑫	B		
教科指導 (英語科)	学力の定着・向上を図る	各学年・教科で基本的な語彙数を増やし、文法力を養う。学習した表現を使った活動を通し、4技能の伸長を目指す。小テストなどで確認し定着を図る。①③	A	A	・ALT の複数配置により、さらにコミュニケーションを図る学習活動を充実させる。
		資格試験等を勧めるとともに、対策課外を実施する。③	B		
	国際人としての視野を養う	ALT との Team teaching 等を通して、英語による言語活動の機会を増やし、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図る態度を養う。①③	A		
		外国の文化や歴史、国際的な話題にできるだけ多く触れさせ、生徒の視野を広げ、コミュニケーション能力の基礎を培う。③⑭	A		
	授業改善の推進	デジタル機器を活用して、課題や小テストの実施・評価をする。①③⑭	A		
教科指導 (家庭科)	生活者としての生きる力を身に付けさせる。	生活の主体者という自覚をもたせ、ライフプランニング・キャリアプランニング力を高める。⑦	A	A	・55 分授業に即した指導計画作成、学習展開をする。 ・外部講師の活用を積極的に行う。
		安全かつ健康に生活していくための知識と技能について体験や実験実習を交えて学習する。①③	A		
	学習指導の充実	学習の見通しをもたせ、主体的・対話的に取り組める学習展開を工夫する。①②③	B		
	授業改善の推進	I C Tや外部のコンテンツを有効活用する。①⑭	A		
教科指導 (保健体育科)	基礎体力の向上 運動技能の向上	基礎体力の重要性を理解させ、体力を高める運動を実践する。③	A	B	・基礎体力および集団行動は社会生活を送るうえで必要不可欠な要素であるため、継続して実施する。 ・スポーツをより楽しめるよう運動技能の育成に努める。 ・自らの健康問題を改善する行動をとれる生徒を育成する。
		各単元の基本的な運動技能について能力に合わせた指導を行う。③	B		
		ゲーム形式の学習を通じて身に付けた運動技能を向上させる。③⑪	A		
	健康問題の解決	保健の授業で様々な健康問題を取り上げ、その解決法を考えさせる。③	A		
		健康や安全についての理解を深め、自らの健康を適切に管理、改善する能力を育てる。③	B		
	授業改善の推進	I C T教材を活用することでより深い知識を身に付けさせ、課題解決する力を習得させる。①	B		
教科指導 (芸術科・美術)	学習指導の充実	生徒の興味・関心に沿った題材設定と、実態に合わせた指導を行う。②③⑪	A	B	・目的や状況に合わせたアウトプットの在り方について検討する。
		創造的な表現や物事の造形的な見方・考え方を身に付けさせる。③⑥	A		
		I C Tを積極的に取り入れ、題材設定と授業形態の工夫を行う。①⑫⑭	B		
	進路指導の充実	学校や学級に愛着をもてるような制作活動や展示を行う。③⑦	B		
		作品制作において、言語活動を通して改善や向上の意識を育てる。③⑥⑦	A		
	特別活動の充実	自己分析と課題発見の場とするために、公募展やコンクールに積極的に参加させる。③⑦⑬	B		
		他者の視点に立って考える機会を設け、公共の精神を養う。③⑦	B		
	授業改善とデジタル人材の育成	I C Tを積極的に取り入れ、課題回収や成績処理の効率化を図る。①②⑨⑫	B		
		生徒の学習環境を整え、授業や部活動をより効率的に実施する。③⑦⑪⑨	A		

別紙様式 2 (高)

教科指導 (工業科・科学技術)	学力の育成	授業・実習を通した ICT の活用、デジタルコンテンツ等の有効活用①	B	B	・課題研究の取り組み方を工夫する。 ・プログラミング技術の授業方法を改善する。
		授業・実習及び探究活動を通した知識・技術の定着③	B		
	学習活動の改善	授業・実習を通した課題解決型学習の実践①③	B		
		授業・実習を通した教科等横断的な学びの充実①③	B		
	外部連携の推進	大学、研究機関、関連企業との連携④⑤⑥	A		
		科学国際セミナーなど校内外での研修・研究活動を通した見聞の拡大④⑤⑥	A		
	授業改善の推進	授業満足度向上のため、授業アンケートの積極的活用⑪	B		
		ICT を活用しての授業改善実施⑪⑫	B		
校務分掌 (教務部)	入学希望者の確保	学校説明会の企画・運営（研究企画部との連携）⑦	B	B	・学校運営をより円滑に実施する。
	学校運営の円滑な実施	定期考査・特編授業の時間割や年間、月間行事予定表の作成②	B		
		教科用図書、副教材、教具等の準備①	A		
	公簿・表簿等の作成、整理	学校要覧、指導要録等の作成・管理⑨	A		
		出席簿、学級名簿の作成・管理⑨	A		
	働き方改革の推進	定時退勤日を設定し、各先生方への周知徹底と推進⑨	B		
校務分掌 (進路指導部)	学習指導の充実	外部模試の実施・4回／年②	A	A	・学校推薦、指定校推薦、総合型選抜等の入試システムについて生徒の理解を深めるとともに、将来を見据えた大学の学部選択ができるよう指導する。
		確かな学力を身に付けるための課外の実施①③	A		
	進路意識の高揚	大学見学会を通して、進学意識を醸成する⑤	A		
		オープンキャンパスへの積極的な参加⑤	B		
	働き方改革	業務軽減を目指し、外部業者の積極的活用⑨	A		
		Google drive を活用しての進路情報の公開⑨	B		
校務分掌 (生徒指導部)	学校生活における安全確保	貴重品及び自転車等について管理施錠の徹底を図り、生徒個人の物品管理に対する意識向上を図る。⑦	B	B	・貴重品の扱いは徹底して管理・指導していく。 各学年やクラス、教員間で生徒指導における差異が生じないよう教員への周知徹底をより強化する。 ・どんな些細なことでも、教員が一人で抱え込むことがないように、今よりも更に多くの教員で共有できるような組織・仕組みを構築する。
		各種講演会を実施し、事件や事故に関する注意喚起と予防を図る。⑦	B		
		校内・外の巡回を定期的に行い、生徒の問題行動・交通事故の未然防止に努める。⑦	A		
		学期ごとに自転車点検を実施し、登録番号・施錠の確認をすることで盗難防止と車両管理の重要性を意識させる。⑧	B		
		バイク・自転車通学者に対して安全指導を行い、交通安全の重要性を認識させる。⑧	B		
	高校生さわやかマナーアップの実践	挨拶指導を通して生徒と教員間の関係性を深め、マナー向上に努める。⑧	B		
		長期休業明けに服装頭髪指導を実施して、清潔感のあるクラス経営と担任・副担任と生徒間の交流を深めながらマナー向上を目指す。⑧	B		
	マナー・モラルの向上と校内外の連携	服装・頭髪の改善等について保護者に通知するとともに、年次団との連携をとりながら指導内容の充実を図る。⑨	A		
		職員と連携を図り、PTA 総会・三者面談等において保護者への協力を依頼しながら生徒に無理のない指導を行う。⑨	B		

別紙様式 2 (高)

校務分掌 (環境厚生部)	安全管理・安全教育の推進	防災訓練・講話を実施し、災害時の適切な行動や安全に対する知識の習得を目指す。⑦	A	B	・清掃用具の状態を点検し、必要に応じて刷新に努める。 ・スクールカウンセラー予約システムのデジタル化を進める。
		防災計画を立案して、学校全体の安全管理を徹底すると共に、安全点検により学校施設・環境の安全確保に努める。⑦	B		
	「健康づくり」の推進	健康診断により自分自身の健康状態を把握させ、自らの健康を管理する能力を養う。③	A		
	学習環境の整備	清掃の徹底とゴミの分別・軽量化を推進する。⑦	B		
		清掃用具の点検・充実をはかる。⑦	B		
	教育相談の必要な生徒の迅速な把握と適切な対応	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの外部関連機関と協力し、保護者と密に連絡を取りながら支援活動にあたる。⑧	A		
校務分掌 (図書視聴覚部)	図書館及び図書の利用の促進	購入希望図書については積極的な募集を行い、短期間で新刊を図書館に配架する。③⑥	A	B	・検索システムを充実させる。 ・蔵書の検討をする。 ・体育館放送室の再整備を行う ・放送委員を活用する。
		リクエストボックスを設置し、生徒に親しまれ、かつ科学的な蔵書の充実を図る。③	B		
		図書便り(尚友・おすすめ本)を発行し、生徒が図書館へ足を運ぶきっかけをつくる。①⑦	A		
	委員会活動の活性化	図書の貸出や蔵書の管理業務を習熟させ、主体的に委員会活動が行えるように指導する。また研修などに参加して、他校と情報を共有する。⑦⑬	B		
		学校行事での放送機器のセッティングや操作を習熟させ、主体的に行えるよう指導する。⑦	A		
	放送室の整備	放送室の有効な使用されるようにする。⑦	B		
校務分掌 (特別活動部)	生徒が主役になる特別活動の充実	生徒が主体となった学校行事の企画・運営を通し、生徒の自主的・実践的な態度を育てる。⑦	A	A	・ホームルーム活動や委員会活動の活性化を目指し、担当職員だけではなく、学校全体で特別活動の指導に当たる仕組みを構築する。
		ホームルーム活動や生徒会活動を通し、生徒一人一人に自覚と責任感を培う機会を与える。また、生徒相互の連帯感を深める。⑦	A		
		生徒評議員会を通し、生徒の意識を高め委員会の活性化を図る。⑦	B		
	ホームルーム活動の推進	「キャリアパスポート」を活用し、生徒の自己実現につなげる⑧	B		
	生徒会活動の推進	委員会活動を活発化するために、活動内容・活動時期等の見直し等を含め、体制を学校全体で考えて取り組む。⑦	B		
	働き方改革の推進	特別活動に関する業務内容の見直し改善を図り、適切な役割分担と業務の効率化により教職員の負担を軽減する。⑨	A		
校務分掌 (渉外部)	PTA活動の活性化	PTA総会への保護者の積極的参加。⑨	B	B	・PTA会員減少にともなう、組織の見直しに取り組む。
		広報活動の積極的実施。⑨⑩	A		
	保護者との連携強化と事業の継続化	PTA会員との密な意見交換により共通理解を図る。④	B		
		研修活動の充実を図る。⑨	A		
校務分掌 (情報管理部)	ICTを利用した授業の推進	ICT機器、コンピュータの整備、システムの活用に関する研修会を行う。①③⑨⑫⑭	B	B	・生徒の個人端末・教員用端末の管理方法の整備を行う。 ・各科、領域で整備された情
		職員のICTスキルアップを促進する。①③⑨⑫⑭	B		
	公式サイトによる情報公開の推進	公式サイトの作成を各部署に分散し、サイトを組織的に運営する。⑨	A		
		公式サイトの更新回数を増やし、情報公開に努める。⑬	A		

別紙様式 2 (高)

	教育支援システムの維持管理と活用	教育支援システムの円滑な運営と活用ができるように計画し実施する。①②⑨	A		報機器やライセンスの情報を集約し、管理方法を整備する。
	校内LANの整備とその運用の活性化	情報機器、校内ネットワークの整備を行い、有効利用を図る。①⑨⑪	A		
		個人情報保護やウイルス対策など、セキュリティ対策を実施する。	A		
校務分掌 (研究企画部)	科学的素養の育成	各種連携（産学・中高・高大）の連絡・調整・企画・実施、科学技術講演会の企画・実施 総合的な探究の時間の充実、STPの実施。④⑤⑥	B	B	・より年間を見通した事業計画の作成及び実施をする。
	国際教育の推進	海外の学校との交流を通して国際感覚を養う。④	A		
年次指導 (第1年次)	基本的生活習慣の確立	生徒がつくばサイエンス2期生として自らを律し、自覚をもった生活を送るよう指導する。 ③⑥⑦⑪	A	B	・進路実現に向けた準備の学年として、生徒の意識の向上とより具体的な進路意識をもてるような取り組みを行う。
	学習習慣の定着	日々の予習・復習をする習慣を身に付けさせるとともに、「Classi」や「スタディーサポート」を活用し、学習習慣の定着を図る。①③⑭	B		
		「進研模試」をはじめとした学習目標を生徒に提示し、学習への継続的な意欲を喚起する。②③	B		
		教育支援ツールの積極的な活用により、タブレット端末の利用促進に務める。①⑦⑭	B		
		キャリア形成のための素地の確立	社会形成能力や自己分析力といったキャリア形成に必要な力を育てる特別活動を実施する。③⑤⑦⑧		
	「キャリアパスポート」を活用し、目標設定から評価・改善までのサイクルを身に付けさせる。⑧		B		
	授業改善と効率化	ICTを積極的に活用し、年次団や各教科の連携を密にとり、業務の効率化と改善を図る。①⑨⑩⑫⑭	B		
		相互に授業参観・研究を行い、生徒の実態把握と授業改善に努める。③⑪⑫	B		
年次指導 (第2年次)	基本的生活習慣の確立	生徒が自ら考える力をもち、集団・社会の一員として自覚をもった生活を送るよう指導を行う。③⑥⑦⑪	A	B	・受験の年を迎えるにあたって意欲的な学習状況をつくり切れていない部分がある。生徒に自ら選ばせる部分と年次の方針として皆で取り組む部分とを明確にして、本校での3年生の雰囲気づくりを行っていく。
	希望進路合わせた学力の獲得・デジタル人材の育成	日々の予習・復習をする習慣を身に付けさせるとともに、Classiをはじめとした教育プラットフォームを活用し生徒の学習状況を把握し適切な指導を行う。①③⑭	A		
		「進研模試」をはじめとした学習目標を生徒に提示し、学習への継続的な意欲を喚起する。①③	B		
		Classi note等の教育支援ツールを授業や特別活動に活用し、タブレット端末の利用促進に務め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す。①⑥⑦⑭	A		
		キャリア形成のための素地の確立	社会形成能力や自己分析力といったキャリア形成に必要な力を育てる特別活動を実施し、生徒に課題を発見し解決する過程を体験させる。③④⑤⑦⑧		
	「キャリアパスポート」を活用し、目標設定から評価・改善までのサイクルを身に付けさせる。⑧		B		
	授業改善と効率化	ICTを積極的に活用し年次団での連携を密にとり、業務の効率化を図る。⑨⑩⑫⑭	A		
		相互に授業参観・研修を行い、生徒の実態把握と授業改善に努める。③⑪⑫	B		

※ 評価規準：A：よくできた B：普通 C：やや不足 D：不足